

## 「社会思想ゼミナール」

飯 田 年 穂

基本的なテーマとしては，社会思想上のさまざまな問題を取り上げて，皆で考え合っていくことである。実際には，社会思想史のなかで古典的な著作をテキストを選び，それを研究するという仕方をとるが，狙いとしては単にその本を読むだけでなく，それをもとに現在生きているわれわれ自身の問題へと関連させ，発展させていくことができればと考えている。だが学生諸君にとって

は、例えば民主主義とか、主権在民とか、自由とかいった事柄は余りに当り前の事に思えて、取り立ててそのようなことを問題にする意味がピンとこない場合がしばしばあるようだ。けれどもそれら当り前の事も、実は決して初めからそのままあったのではなく、一つ一つ人々によって戦い取られてきたものなのであって、そうした人間の歴史に支えられて今漸くわれわれのもとにあるのである。当り前の事の間隙を突いて、それらを曖昧化し、無意味化しようとする試みに囲まれているわれわれにとって、古典を通し、歴史を媒介にしつつ、それらの意味を問い直してみることは、意味のあることと思う。